

オーディオ実験室収載

Brooklyn DAC+の試聴(5)

—SDIF 入力の試聴—

1. はじめに

前報(4)に引き続き、Brooklyn DAC+ の SDIF 入力の試聴を実施します。

2. Brooklyn DAC+の試聴方法

TASCAM DA-3000 から 3 本の BNC ケーブルで Brooklyn DAC+に入力します。BNC クロックケーブルは、Brooklyn DAC+の WORD Clock BNC 入力端子に接続します。BNC ディジタルケーブルは Brooklyn DAC+のディジタル入力端子 1 と 2 に接続するのですが、この端子は RCA タイプですので、BNC→RCA 変換コネクターを介在させます。このあたりの条件は事前のディーラーへの質問で確認しています。なお、DA-3000 には、ABS-7777 から 44.1KHz のクロックを入力しています。



比較対象は、常用している MYTEK DIGITAL 192-DSD の SDIF 入力です。

音源は、BPODCH と BS 録画を DMR-UBZ1 で再生し、Sonica DAC 経由で DA-3000 に入力し、DA-3000 から 5.6MHzDSD に変換して Brooklyn DAC+に送り出します。

3. Brooklyn DAC+の試聴結果

設定の手順は、前報(3)および(4)で大分慣れてきたので、ボリュームノブを回しながら、動作設定の下のボタンを押し、そこで必要な条件設定について、表示の文字が小さいのでペンライトや拡大鏡の助けを借りながら、目的のものを探し出して確定させるという手順で実施していきました。

まず、入力に SDIF の選択がないので慌てましたが、Coaxial Function のところで S/PDIF と SDIF の切り替えがありますので、SDIF を指定すると、入力も SDIF の表示に替わりました。ついで Sync のところで WCK (Word Clock) を指定します。

ところが、和訳マニュアルは赤字のようになっており、原文とは違っていますので、誤訳かタイプミスか原文のミスと思われ、エミライに問い合わせ中です。

9.2.5 Sync (マニュアル和訳 Ver.1.1)

- WCK (Word Clock) / USB、AES、SPDIF1&2、Toslink、**SPDIF** にて使用することができます。

9.2.5 Sync (マニュアル原本 Ver.1.3)

- WCK (Word Clock) / available for USB, AES, SPDIF1 & 2, Toslink, **SDIF**

さらに、SDIF Rate は DA-3000 の送り出しフォーマットに合わせて、仮に×128 に設定しましたが、この設定が正しいかどうか不明です。

また、9.2.19 DSD Filt BW (DSD 用ローパスフィルターの帯域幅設定)は、意味が分かりませんので触っておらず、AUTO になっています。

このように、マニュアルの説明が不親切で、かつ、不整合があったり、液晶画面の字が小さいなどの問題があり、SDIF 入力はディーラーも経験がないとのことで問い合わせることもできず苦労しています。



以上のように条件設定が不明のところがありますが、一応音は出るようになりました。ずっと聴いた感じでは、他の入力の場合と同様、MYTEK DIGITAL 192-DSD の SDIF 入力に比べて、見通しがよくすっきりとした音質のようです。

4. まとめ

かなり手間取りましたが、なんとか、DA-3000→Brooklyn DAC+の SDIF 伝送が可能になりました。条件設定の最適化と厳密な音質評価は、不明点を明らかにしながら今後の問題としておきます。

以上